

#### 第4分科会「介助～障害者自立生活運動から考える～」

コーディネーター：樋口恵子（DPI 日本会議常任委員・全国自立生活センター協議会前代表）

パネリスト：藤田利雄（北風の会）

小山内美智子（社会福祉法人アンビシャス総合施設長）

中西正司（DPI 日本会議常任委員・

全国自立生活センター協議会代表ヒューマンケア協会）

コメンテーター：西村武彦（札幌弁護士会）

コメンテーター共に意見を交わしながら実りある時間にしましょう。パネラーの方から自分の立場で、生活について提案して。

藤田 小学校のことから話します。小学校2年生から特殊学級へ行くことを親と先生が決めた。小学校2年生になった時、先生から「今日はこっちだよ」と言われた。いじめにあって、特殊学校の子とは遊ばないといわれた。

中学2年生の時、ばらと川に先輩とぼくと後輩の3人で遊びに行った。その時、川の近くにバイクがあったので、乗って遊んでいたら、パトカーできたおまわりさんに「このバイクはどこから？ばらと川でもってきたの」と聞かれたので「川のちかくからもってきて乗ってる」と言いました。「東警察署にいて、くわしいお話をききたい」と言われ、パトカーに乗せられ、東警察に連れていかれました。家はどこ、名前は、学校はどこか聞かれました。そして、次の日学校に行ったら、先生におうぶくびんたで叩かれました。

高等養護学校には中学の先生に進められて行った。1年生の時は自宅から通学した。2年生からは寄宿舎に入りました。1年生の時、学校が遠く、行くのがいやで仮病を使ったり、学校へ行くと言って大通公園で遊んだりしていた。また、学校の近くまで行って学校には行かないで帰りの時間まで遊んで、帰りの時間のころバスで帰ったりしていた。今思えば、よく退学にならなかったなと思っている。寄宿舎を逃げ出したり、他の人をいじめたこともある。高校3年生の時、「てんかん」を発病した。

社会に出てからは建築現場の力仕事や木工場、新聞配達などをしていた。仕事にもついていけず、25才から26才の頃、病院で暴れ、警察を呼ばれ、2年間ほど、精神病院に入院させられたこともある。仕事をすると、「いじめられるのではないか」と思うようになり、一般の仕事につくことの意欲がなくなった。何もしないで、ふらふらしていた時期が続いたが、このままじゃだめだと思っていた。同居している母親が病気で入退院をくりかえしました。ひとりになると不安なので、お母さんと一緒に同じ病院に入院したこともある。

お母さんのヘルパーできていた人の紹介で、共同作業所・共生舎を利用することになりました。

その時、39才になってはじめて療育手帳をとりました。作業所を利用するにあたり、療育手帳交付申請をしましたが、学校でも、病院でも、療育手帳のことを教えてくれなかった。

お母さんの看病をしながら週3回作業所を利用していた。作業所に行くと、そこにはいるとお話するのが楽しかった。お母さんの入院が長くなり、ひとりで生きていかなければならないと、覚悟をきめました。そして、今年2月お母さんが亡くなってしまいました。お母さんがぼくのことを心配しなくなってしまったので、これからしっかり生きていきます。これからいろいろなことを支援してくれれば、一人で生活ができます。

地域活動センター「ほくと」で、自分たちで作業所を運営するという考え方に会った。当事者運動に興味を持った作業所で、リサイクルショップの担当や自分の役割を自分から持つことにした。ぼくは、朝起きるのが早いので、みんなが来る前から作業所に行き、お湯をわかし、ポットにいれたり、ごみなげをしたり、お店の前に物を並べたりします。最初友達が作れるかと思った。行政交渉などの時先頭をきっていく隊長の役割をしています。

東京であったピープルファースト全国大会に参加しました。北海道のプラカードを持ってステージ

にあがりました。10月にピープルファースト大会が札幌であり、10分間スピーチをしました。健康のこと - 病院へ行った時医者の話を一緒に聞いて欲しい。衛生面でも洗濯、入浴も面倒になるが、気をつけなければならない。食生活 - 気をつけないと、食べたいものばかり食べて栄養がかたよってしまう。金銭管理 - 欲しいとおもったら、あまり考えないで何でも買ってしまうことがある。休みの過ごし方 - いろんな所に出かけているが、多くの情報があればうれしい。行政などの手続き - むずかしい内容の文書がきたり、話を聞いてもわからないことがある。作業所の支援 - 病院への付き添い、部屋掃除の手伝い、昼食の栄養管理、金銭管理、レクレーション、行政手続き。

母さんがなくなってから、札幌市営住宅で一人暮らしをしています。たたみの部屋が二つと、台所、トイレがあります。風呂は銭湯へ行きます。家賃は、月に4600円です。家のことを一人するのは大変です。今一番必要なのは、ホームヘルパーです。そしたら、一人暮らしをがんばれます。

樋口 ありがとうございます。今ガイドヘルパーは使っている？

藤田 ないです。

樋口 支援を受けているのですね。たくましく生きているのを聞かせていただきました。

次、小山内さんから

小山内 24年間運動して生きてきました。わたしは、ごろついて生きてきた。このごろの若者もごろついて欲しい。

私は、何か言われた時、覚えていないと怒られるからわかったふりをする。戦いの日々でした。札幌に暮らしたい、結婚したい、映画も行きたい。好きな時間にトイレに行きたい。体が悪いのにこんなことを思っているのが、最初から頭がおかしいと言われた。みんなが言うと正しくなってくる。DPIは札幌で行われるが障害者の声を聞いて、参加できる方法を考えて欲しい。自分の欲しいものを欲しいくせに。山奥の人がそう暮らしていると、私のやっていることで勇気をもらえる。自分の考えが正しいか不安と思う。自分の考えが正しいと言うことを伝えなければ。今は中西先生が困った時に力づけてくれる。デモをやったり、表明運動で考え行動する。

ケアのことですが、障害者にとっては何にも変わっていない。ヘルパーが週に2、3回から毎日きてくれるが、ヘルパーの精神が変わらずに、「あれをやってはいけない。これをやってはいけない。」と言われる。ヘルパーでもおかずを作ってもってきてくれる人もいる。障害者とヘルパーは友達になっただけの関係。血が通わない。本当に良かったという会話から社会のこと等、色々勉強しなくてはならない。どれが好きか考えてキャッチしてくれている会話する。そうすると、緊張して危険です。危険なことをやれと言う。

私が施設を経営するということは辛気臭くならないようにと難しい。障害者は歩けない、孤独です。映画にも旅行にも行きたい。職員といきたい。小山内さんにしてあげたら50人にしてあげなければならない。それはできない。どこかで、きいたことない？本当に施設を良くするのは限界がある。一時的なところで一生いるところではない。

社会を、北海道をよくする。世界平和を守る。それが福祉。やっとなヘルパー派遣を。ストイックなのが怖いという。一人でご飯たくささせてと言うのは難しい。元気のよい信頼関係による。

今は、ヘルパー制度をやっているが、難しい。自分で探して至難の業です。ヘルパーにも、いやな人も好きな人もいて、好きなときはいいが、なんとかヘルパー制度を改良しないと困る。障害者自身が信頼関係をどう作るか。やって欲しくないことを言うのは難しい。

でも、その癖をつけないとあとがこまる。結婚の1日目からだんなさんに茶碗を洗ってもらわないと、何もなくなる。1日目から、戦い。全国的に徹底していきたい。

樋口 施設経営に際して大変さ、日々の暮らしを快適にしていくこと。異性の中に一人で入っていくことなど。

次、中西さん。

中西 はじめまして。小山内さんが、中西さんに「先生というのは馬鹿にした言葉なので言ってはいけない」と言っている。支援する側と、支援される側の関係を根底から変えなければ。それを言い続けてきたが。

障害者は悪いことをしない人と私は思っているが、施設では、ごめんなさいと言わなければならなかった。

障害者を雇用でき解雇も出来るようにしていきたい。自立センター施設や障害者への考え方を変えていかなければ。結婚も対等な関係にしていかなければ。全国制度にはなかなかならず、自分たちで作っていかうと思って始めた。ベストとなるようにしていきたい。自立センター施設や障害者への考え方を変えていかなければ、結婚も対等な関係にしていかなければ。全国制度にはなかなかならず、自分たちで作っていかうと思って始めた。ベストと思う介護制度を当事者自身で作る。介助者を自分たちで集める。9時5時夜中の2時でも来るのがサービス。対象者も無制限。スキーで足を折っても無制限。医療行為はやりなさい。介助者が決めるのではなく、当事者が、我々が決める。行政はやってくれない。でも、世の中でやってくれる人もいる。我々の組織なら可能、行政は不可能ではない。行政は制度を変えるだけでよい。24時間対応にしてくれたらよい。

我々はスタッフを用意します。市役所に年末最後の日に押し寄せて、活動をして、制度を勝ち取った。当事者運動のないところにはない。全国99カ所自立センターが出来ている。身体障害者の2003年には制度が使えなくなる。最終的には自分で選びたい。残せないのであれば、全国に自分たちでサービス団体を作り、対応できる。小山内さんがいる限り大丈夫。運営委員の51%は障害者でなくてはならない。サービスが利用者に対応している。2003年は、2～3級はヘルパーでなくては介助できないということになる。とっているのだから、お金を払う対象になる。国はなぜ学生にお金を払ったかと問われる。

今はヘルパーの研修は知識があればいい。自立生活センターには、介助者は25000人いるが、82%は介護必要者。知的ガイヘルパーが必要。自分が選ぶ。介助サービスをこえるサービスの制度化がもめられる。

精神当事者の気持ちがわかる人は24時間、今すぐ飛んでいけるでしょう。知的な障害者当事者です。それを肌身で知るのが当事者です。全国で支援するために、その制度をパーソナルアシスタント支援するそしきです。研修会をひらく。

樋口 当事者運動をすすめ誰もが地域で暮らしていけるように。ここで会場からここ語られなかったことについて介助に関しての実態を、また、質問をとりながら、今日のディスカッションをしたい。質問用紙も入っているが、音声や手話でしていきたい。いかが？

ヘルパー2級の資格をもって、今回DPIのボランティアのみかみです。これから資格を生かして小山内さんがヘルパーと友達ではいけないと言われたが？ / 友達になってはいけないということについてですね

私は接することでその方の人生を得ることができる。友達でもいいとおもう。

樋口 行政から言われたのです。ボランティアの方、マイクを持って、動いてください。

今年NPO法人をたちあげます。現在、有料ボランティアで、入浴介助を受けている。友達になっ

てはいけないと言われてる。が、1~2年経つとならないように努力している。それで入浴介助いる。そこで入浴介助に対し友人達を今度自分で受けるし、事業としても管理はしやすい。受ける側は制限がつくと難しいのでは。そのへんの苦勞をおしえて。

樋口 ほかに？

岡本です。知的障害者と接したことがないので、教えて欲しい。

樋口 ほかに？ここでこちらにマイクを戻し、せいかつ介助の立場で小山内さん、藤田さん、中西さんに。よろしくをお願いします。

小山内 私たちも一緒にカラオケも行きたい。映画にも。行きたい。でも友達になっではいけないと言われる。公には付き合えない。まるで愛人関係。いいヘルパーさんよ、といっても、他の人にはそうともいえない。せっかくいいことでも、受ける側にも問題がある。歯止めがない。一週間に一回、毎回行きたかったら、どうしますか？歯止めがない。本当は携帯番号を教えたいが教えると、毎回誘われるので、たまったものではない。それで教えられない。歯止めがきいたらいい。ちゃんと出来るならいいよ。孤独なので用事がなくても、来て欲しいのです。うまくやったら、完全犯罪のように愛人関係は作れる。互いに打ち合わせ、スケジュールをきめ順番に何月にはこの、この人と決めている。よく考えていけばヘルパーと友達になれる。札幌市はお茶を飲んでもいけない。かくれてやっている。中西さんはあたしの愛人ですから中西さんからひと言をお願いします。

中西 健常者の介助者も自立するのが基本。自立するのが基本。自立している関係が一杯在り、付き合いがあるが仕事の関係しかない、愛人のように思う。介助者のほうは、4日間を遊びで使うと介助ができない。介助者には本来の仕事ができないといけない。懇意に付き合う人は良い介助者ですが、自己管理ができない人がいる。介助者の関係で仕事が忙しくても結婚する人もいるが、規則で決めるのはいけない。日本の健常者は自立していない。それは日本を健常者もいる。健常者に強さが無い。それを变えるのが自立生活センタ です。

樋口 自分が自立生活センタ です。

樋口 自分が信頼できない人に介助をされるのは人権侵害という信頼関係があつてこそ、裸の付き合いができる。介助を利用している人は自分のできる範囲の介護をいえることがいい関係をつくる。藤田さんに対しての質問です。藤田/新聞でかなをふってほしい。地下鉄などもかなをふってほしい。漢字をかかれたものをかなをふってくれるといい。かなをふって。町中漢字だらけで、「こんなのわからないの。」とおまわりさんに言われ、町に行くなといわれた。遊びに行きにも支援者が欲しい。判りやすく。説明してということ。病院の付き添いや、健康面とか好きなものをたべてこまるときなど。「B-」(ビーバー)というのがあり、Bの人は、ウイズユーをもらえるが、が「B-」のぼくはもらえない。

出かけるとき、誰かがついていこうかまようことがある。

ついていってくれてます。行政のこたえは？

直ぐ返事は無い。あとでといわれる。同じ返事ばかり今度はすると言う返事しかない。それで時間がかけられてるわけね。

あと1時間ですが、なにか、今までのななしでじぶんの障害にかんしてなにかありませんか。

どうぞ。

私は弱視だが、右がみえ、左がみえない。役所に介助のヘルパーをとたのんだ。自炊して18年経つ。級によってどこまで受けれるのかの調査がいられた。冬道歩くのが大変。人の手をかりないと、値段を見たり、店員に聞くのも恥ずかしいし、そんな時、ヘルパーがいるといいと思う。私についていただくために心構えを聞きたい。

沢口 自薦ヘルパーマニュアル教科書が必要。どんなことが必要かを、ひと言であればおしえて。

樋口 市町村障害者センターが96年から施行されているが、行政に対してヘルパーが必要という制度を教える支援をやっていると思うがいかが？

小山内 たのめば来てもらえるので買い物に、ガイドヘルパーをつけてもらっては。ガイドヘルパーさんを利用したらと思う意見をいい、語り合わなければ。西村さんが弁護士協会の会議があるとのことだが、実態を語って欲しい。医学会議にも。医者ばかりで語り合ってもどうにもならない。介護学校の専門家が頭を下げるようになった。

樋口 ありがとうございます。藤田さん。

藤田 話し合えるいい社会にしたい。DPIカードの宣伝です。1階で受け付けている。よろしくをお願いします。

樋口 介助の分科会を終わります。昼食は引換券で。食べてから体育館に移動。4時に千歳いきのバスが出ます。ありがとうございました。昼食後全体会で締めくくりがあります。ありがとうございました。札幌会議は2000人の大集会になりますのでご支持を。よろしくをお願いします。